

# 高齢者がお互いに助け合える 地域社会の実現に向けて尽力。

たなべ えいいちろう

田邊 榮一郎さん 特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ(大阪府東大阪市) 83歳

## 「地域包括ケア」の実現 のために。

「平成37年を目途に、高齢者のための『地域包括ケア』システムを構築する」という政府の発表に対応して、高齢者による助け合いをモットーとする特定非営利活動法人「ニッポン・アクティブライフ・クラブ」N.A.L.C.(ナクル)では、「地域包括ケアシステム」の構築こそ終局の目的として、市川市、銚子市、高槻市、東大阪市の4か所をナクルとしてのモデル市に設定、その活動を展開することになりました。

ナクル結成以来20年にわたって活動してきた田邊榮一郎さんは、東大阪市地域支え合いネットの代表世話人となつて、平成22年にナクルを中心に、東大阪市のNPO、社協、地域包括支援センター等の個人に呼び掛け、30数名を

集めて「地域支え合いづくりネットワーク」を立ち上げました。

相互に交流を図りながら、それぞれの活動の中で「包括ケア」を目指し、市民に対する呼びかけ活動を開始。翌平成23年に約350人が参加した「つながり支え合いの地域づくり」のセミナーを開催し、さらに平成25年には、地域の医師を中心に「孤独死を無くするため」のセミナーを開き、300名が参加しました。

## 肩書きを外して個人同士の絆を深める。

「コミュニティネットワークを組織、機関で進展させることは難しく、まず肩書きを抜きにした個人同士の絆を深め、広げることが先決である」と気付いた田邊さんは、ナクルの副会長の肩書きをはずして、いろいろな立場での集りをつくる世話役活動を推進

しました。

まず石切地区の住民から市民を中心にした活動を進めたいとの要望もあり、「地域支え合いづくりネットワーク」での勉強会を2か月に1回、石切地区における自治会、婦人会、民生委員、医師、看護師などの個人の集りを3か月に1回、居住マンションでの「男たちでしゃべろう会」を毎月実施。

「コミュニケーションを深める中で、毎月、市の福祉部、まちづくり部、地域の包括支援センターを訪問し、情報の交換と意見具申を行っています。

## さらに「コミュニティネットワークを広げる」ために。

数多くの「コミュニティカフェ」にも参加して仲間を増やしなから、「コミュニティネットワーク」の地域協議体づくりに日夜専念する田邊さん。

「今後は、現在の活動の上に立って、石切地区に『地域協議体』を設けて、生活支援「デイネーター」としてパイプ役を果たし、「地域包括ケア」のモデルをつくり、東大阪市全体のものにしていく予定です」と今後を語ります。

